明治廿六年五月四日印刷
明治廿六年五月五日發行

婦人衛生雜誌

第四拾貳號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第四拾貳號
目次

講演

◉種痘　醫學士　三島通良君

寄書

◉各國に於ける授乳時の長短　ドクトル　佐伯理一郎君

衛生叢談

◉浴塲行日誌（前号の續）　醫學博士　佐々木政吉君
◉府下十五區六部の肺病患者
◉小兒の頭髪を剃るの弊
◉長崎の狂犬病
◉コッポ氏の來朝
◉ラムネの取締方
◉富豪の攝生法
◉虎列剌病の流行病及マラッカに於ける虎列剌發生詳報
◉火傷の妙藥
◉僂痲窒斯患者癲狂に變す
◉火葬料改正の協議
◉摘草の注意
◉流行病一束
◉大日本婦人衛生會の懇親會景况
◉同役員改撰の件
◉廣告

大日本婦人衛生雜誌
第四拾壹號
目次

講演

◉産の話　ドクトル　朝山義六君
◉眼鏡の利害に就て　醫學士　宮下俊吉君
◉耳病者の心得　醫學士　賀古鶴所君

衛生叢談

◉啞生の耳
◉種痘に關する注意
◉種痘の効力及種痘中の注意
◉傳染病研究所の建築
◉コッホ液の注入
◉大日本私立衛生會常會
◉妊娠と題する第參拾九号の續き
◉流行性感冒
◉婦人衛生會總會

婦人衛生雜誌第四拾二號
（明治二十六年五月五日發兌）

講演

◉種痘

（三月十一日婦人衛生會總會
麴町區富士見倶樂部に於て）

醫學士　三島通良君演

今日は種痘の事に就て御話を致します。先つ人間の世の中に居りまする中に、最も快樂とすることはドウ云ふ事であるかと云ふに就ては、往古から學者がいろ〳〵に說て居ります。孔子の說いたのと釋迦の說いたのと基督の說いたのとは、其の說き方は皆少しづゝ違ひますが、皆人間の最も快樂とすることは何かと云ふことを說明することに骨を折ッたので御座います ソコで私の考へには、少しく說き方は違ッて居りますが、人間の最も快樂とすることでは安心と云ふことであると思ひます。ソレならば安心と云ふ事は何が一番大切であるかと云ふに、自分の身神が健康であると云ふ事が一番の安心。然らば此の人間は健康と云ふ事を以て、安心の土臺と立てゝ宜しからうと思ふ。縦令其の外の事が如何に揃ひましたとてからだが健康でなかつたならば安心と云ふ事は出來ない。ソレ故孝經にも「身體髮膚之を父母に享く敢て毀傷せさるは孝の始なり」とある。父母より受けたる自分のからだを大切にして傷け破らず、父母の心を安んずるを孝の第一と致し、「身を立て道を行ひ名を後世に揚げ以て父母を顯はすは孝の終なり」と云うて、自分の身を修め道を行ひまして、其の名を天下後世に揚げ、以て父母の名までを顯はすは、ソレは後の事で、先づ第一にからだを大切にしなければならぬと云うて有るのです、此事は古今時を異にし學者說を異にすと雖も、其の大體に於ては決して動きませ

ぬ。實に人間はからだが健康であれば、思ひの儘に働くことも出來ます、從て金も得られるし、名譽も得られます。さう云ふ風になつて來ると敢て自分のためのみならず他人の爲めにも十分盡力して遣ることも出來ます。施て國家の爲め天下の爲めにも盡力することが出來る。實に身神の健康なるは已れも安心なり、又國家の安心にもなること此上ない。則ち斯の如くなれば上は　天皇陛下の大御心にも適ひ、下萬民の職を竭す事にもなッて來る道理で有ます。前に申述る如く、人間最大の安心は健康であるとすれば之に反して、人間最大の苦痛は何であるかと云ふに、即ち不健康、病氣、人間のからだの弱ッて來る事である、殊に病の中でも人の心を痛めるは小兒の病氣。小兒と云ふものは口を利くことも出來ず、已れの心を他人に現はすことも出來ませぬ、けれども其の兩親兄弟と云ふものはドレ程心を痛むるか知れない。然らば此の無邪氣なる天眞爛熳なる小兒が苦惱するばかりでなく、其の父母兄弟が大變に苦痛する。乃ち之が人間の最大快樂に反對したる最大苦痛と云ふものである、故に病氣を救ふの術、之を仁術と云ひます人間の最も快樂は健康、之に反する最苦痛は不健康、其苦痛を救ふ故に醫師の術を仁術と申すのであります。仁術と云ふのは強ち貧乏人を救ふて治療する等のものばかり仁術と思うと違ひます、ソレも仁術の一端ではあるけれども、一方で藥違ひなどをして、療治を過ッて人をコロ〳〵殺す者が出たときは、一向仁術の差引勘定が附かなくなる。然らば何を以て此の仁術の本意を施すかと云ふに、病氣を癒すと云ふよりは、病氣にしない病氣に罹らせないと云ふのが即ち仁術の極意であります。さて病にも色々御座いますが、誰方でも病氣の好きな御方はない。一寸した感冒、頭痛位には蜂谷に即

効紙を貼つているのが意氣だなどゝ云ひますが、餘り意氣なことは御座いませぬ。病氣の數は非常に澤山御座いますが、其中でも最も人の嫌忌がるのは傳染病、其の傳染病も政府で傳染病豫防規則に依り取締ッて居るのは、僅かに六ッでありますが、元來其數は尙は澤山あります。現に百日咳、實扶垤里、或は手などに出來まする腫物も傳染病であります。何故ソレ等傳染病を人々が嫌忌がるかと云ふに、其の病の人の側に往くと感染る。外の病氣なれば如何なる重き病人の側に往ッても看病しても感染ることはないが、傳染病は縱令輕き病氣でも側に往くと感染る。或は側に往かないでも感染ることもある。皆樣の御嫌ひの虎列剌、實扶垤里、窒扶斯、肺癆等の傳染病の中でも、最も嫌忌な病氣は何かと云ふに疱瘡です。此は實にドウも嫌忌な病氣であります、然るに近頃は此の天然痘が餘り御座いませぬから、私共も天然痘を見ることは殆ど稀でした。所が昨年は非常に流行しまして、全國に三萬人以上も患者が出來た、昔の人はよく御承知でありませうが。私共はヒドイと申してもドノ位にヒドイものだか其極めて劇しいのは知りませぬが、爰に桑田立齋先生の引痘略抄と云ッて、疱瘡の狀態を委しく書いたものがありますから、一寸朗讀して御聞かせ申します。之を讀みまするど少し御心持を惡くなさるかも知れませぬから、前以て御斷り申して置きます。

引痘略抄　桑田立齋

夫れ痘瘡は幼兒至大の厄にして死するもの十に七八に至る故に古より醫俗共に恐るゝもの之に過ぎたるなし、往事は措いていはず、弘化丙午の年大に流行し惡症殊に多く死するもの夥し、予も之が爲に日夜奔走し其見聞するところ頗る多し先づ大概をいはんに序熱つよく譫談のみにて狂ひ躁ぎ或は血を吐

下し或は紫班を發し疱瘡の皮膚の中にありて現はれざるものは二三日にして死し或は六七日に至つて死す又出そろひたれども細にして漆にかぶれたるが如く、貫膿の比に至りて少しも起脹らず反つて痒出で、顔を掻き剥り手を押れば足を合せて摩りむき、足を防げば顔を枕にすりつけ脊を床にすりつけ更に之を防くこと能はず荊芥、蒼朮およひ茄の莖等を焚ども驗なく終に總身すりむき赤肌となり後には眞黒につき其毒内攻して心下へ差込み齒も缺くるほどかみ叫んで父母を呼び咽は痰にて塞がり聲も嗄れて悶へ苦み大に渇き、水を飲ものは十二三日にして死す又皮薄く破れ易く貫膿することなく多くは陷んで皺になり其儘にて收靨るものは十六七日の比に至り余毒再發し腹脹りて死するものあり或は衝心して死するものあり或は走馬牙疳とて齦腐り齒も落ち唇まで貫て死するものあり假令死せざるも余毒の爲に盲聾となり或は鼻塞り或は手足屈し或は醜容になるもの多し病家名流の醫を招き犀角、一角、鹿茸、反鼻、底里亞加、洎芙藍、大人參、規那、龍腦等の諸藥を用ゐ遺るところなく治療を盡し或は神佛に祈念し千慮万計して力を盡せしも聊か寸效なく一軒の家にて二三人死するあり幸に死を免かるゝ家稀なりされは市中は日々葬送多く並び行き寺々にては日々二三人或は五六人甚しきは十三四人に及びたることあり。

先づこんなもので、天然痘の恐ろしい事は、此處で先生の書かれたものを讀んでさへ厭な心持が致します。之に實際罹ッた時は虎列剌が厭だなぞゝ云ッても、天然痘程いやな病氣はない。是れ程厭な病氣では御座いますけれども、今日では之を防ぐ法が御座います。外の傳染病は縱令防ぐ法は有りましても、未だ必ずしも防ぐことが出來ると極ッては居らぬ。

然るに天然痘は乾度防ぐことが出來る、ソレは皆樣も御承知の通り種痘法であります。此種痘たるや今より百年ばかり前、英吉利のドクトルエドワード、ヂエンナーと云ふ人が發明したので、其の法は確實に之を行へば必ず天然痘を防ぐ事が出來る。單に防ぐのみならず全く莫くなることが出來ます。彼の小兒科の泰斗たるヘーノヒと云ふ先生の著した、小兒に關する書物の中には、天然痘の所だけは拔いて全く書いてない。ソレは何故かと云ふに、先生の見識として天然痘は人間の力で撲滅することの出來る病で、決して天然痘の如きは人間世界に入れることは出來ないものである故に、此等のことは書くは及ばぬと云うて、殊更に拔いてある位で御座います。種痘の有効なることに就て其の一例を擧ぐれば、昨年天然痘の流行しました時に、越後の古志郡と云うて長岡近傍でありますが、ソコの病院長の甲野泰造君に此頃會ッて聞きますると、甲野君は非常に嚴しく種痘のことを勸めて、眞個の强制種痘を老若男女の區別なく何百人となく行ッたさうで御座います。さうすると隣りの南蒲原郡と云ッて見附町の在る近所ですが、其處では疱瘡が盛に流行して、死亡者も多く出來ましたが、古志郡は僅か二三町隔ッて居る所でも、一人も之に罹る者がない。殊にその境に居る者にはセッセッと種えてやった所が、遂に古志郡では一人も疱瘡に罹らずに濟んだと云ふ事です。實に他の傳染病は幾ら良い豫防法をしても必ず防げるとは限らない、併し此の天然痘は種痘さへ能く致しますれば、縱令ドノ樣な重き病人の側に參らうとも、決して傳染らぬ。ソレが種痘の立派なる効能であります。

斯くの如く天然痘を防ぐには立派なる豫防法があるのに、ドウして天然痘患者が出來るのであらうか、

昨年は日本中で三萬人以上も患者が出來、今年も大坂府兵庫縣長野縣靑森縣新潟縣山口縣などに流行し斯く年々に流行するのはドウ云ふ譯であるか、完全なる豫防法が有りながら之を防ぎ得ないのは、如何なる理由であらうか、今若し外國の人が之を聽いたならば何と申しませうか、「近頃日本と云ふ國も大分開けたと云ふ噂さであるが、アノ樣に天然痘の流行を來すやうでは日本の人民は實はまだ開けないのであらう」と云ッて笑ふに相違ない。實に此の種痘を行はないで天然痘の禍を受けると云ふのは、恰も火は熱いと云ふ事を知りつゝ飛入つたと同じ事であつて、之を稱して無智と云ふより外にない。則ち天然痘の流行する中は、幾ら日本人が國威を耀かさうと思ッても、其の目的を達することは出來ませぬ。若し是がため國威を耀すことが、出來ないと云へば天然痘の流行は實に日本の國辱である。而して其責は誰に歸するか、內務大臣も罪があり、衛生局長も府縣知事も罪がある、郡長、市町村長も醫者も罪があります。然らば此だけの者が罪を負へばそれで宜いかと云ふに、否々一般人民も罪を負はなければならぬ。決して政府の人ばかりの罪ではありませぬ。

扨て此の如く豫防法の有るにも拘らず、天然痘の流行を來すは全く種痘法の不完全なるが故である。一體此の種痘とは如何なるものかと云ふに、一口に言へば天然痘の膿や痂を健康の人に種ゑ著けて、輕き疱瘡に罹らせそれで天然痘に罹らぬやうにするのであります。此の種痘に就て三ケ條の要件が有ります即ち第一が痘苗、第二が施術者、第三が種痘法であります。

第一の痘苗にも色々ありますが、大別すれば**人痘苗**と**牛痘苗**との二ッであります。此の二ッはどのやうに違ふかと云ふに、牛痘苗と云ふは天然痘の膿を犢

牛に種ゑて、其牛から取ッた苗が牛痘苗であります。牛の苗を人間に種ゑて取ッたのが人痘苗此の二つの違ひがあります。此の二つの痘苗の中で何れが良いかと云ふことは少し研究しなければ分らぬ。ソレで唯今痘苗を御覽に入れますから能く御覽置きを願ひますが今日世間で重に用ゐて居るのは何れかと云ふに。人痘苗の方であつて、牛痘苗は未だソレ程に廣まつて居りませぬ。此の痘苗　餘程大切のもので、痘苗が悪るいと大變な害を起して來る。其事も今日御話する考へですが、先づ種痘の遣り方から先きに御話申すと致しませう。

種痘とはドウ云ふ事をするのかと云へば、種痘とは種痘針に痘苗を附けて、ソレで皮膚に傷を附け其痘苗を皮膚の中に染み込ませる、ソレが即ち種痘です。其致し方も幾通りもあるが今世間に行はれて居るのは、刺種法と云ッて斯う云ふ針の(針を示さる)先に痘苗を附けて、皮膚を張ッて置いて、針の突きで突くのであります。此の遣り方でも能く種ゑれば悪るいことは無いが、決して完全の遣り方とは申されない。凡そ何事にても弊害は實に起り易いもので、此の種ゑ方も初めの中はさうでもなかつたのですが、當今では針の先きの成るべく薄いのを使ッて、己は一時間に百五十人種ゑたとか、或は二百人種ゑたとか數多くこなすのを自慢のやうにする人がある。ソレを私は音樂入りの種痘と申します。なぜなら種ゑながらピチ／＼と音をさせます、然るに此の音樂入りの種ゑ方は極めて不完全な種ゑ方である。不完全な種ゑ方をすると眞正の効力がないから幾度しても天然痘を防ぐことが出來ぬのであります。然らばドウ云ふ風にするが宜しいかと云ふと、切種法です、歐羅巴で行はれて居るのは、大きく切るので、俗に言ふ一ッ疱瘡、(針を示しながら)斯う云ふものを以て

横縦に條を附けて、種をおすりつけるのです。是れは大變に宜き方法でありまして、大きな痕が附いて丁度梅干を潰蹈ぶしたやうな痕が殘ります。貴婦人方杯が大禮服を召す時に梅干の勳章が腕に附いて居ては不都合でございますから、大抵は内股に致します。併し日本では是も或事情が許さないから到底行はれ難い。ソコで私は數年工夫をして極く簡易な法を考へ出しましたソレは斯う云ふ私の考へた針ですが(針を示さる)此針でチョイ〱と蚊飛白を拵へる是も遣り方の上手と下手では大變に違ひますが、併し是ならば音樂入りのブツン〱と云ふ遣り方を、丁寧にしたのよりは痛くもなく附くことも請合です種痘は痘苗が精良で能く感じさへすれば、天然痘を防ぐに足りますが、切ツて種へる方は餘程附きもよし、從て天然痘を防ぐ力も強い。ソコで此處に色々の針がありますから御覽に入れます。

(種痘針數種を出し、一々其使用法効用等を説明せらる)

扨て種痘をして、疱瘡が附いて後はドウなるかと云ふに、其の種ゑた所は紅色になる、丁度蚤のくつた痕のやうになる、あなた方は蚤に御かまれなさつたことはありますまいが、中に小さき點が出來て、廻りが紅色になりますが、丁度種痘の痕もさう云ふ風になります、ソレが三日も經つと點が固くなり、五日も經つと其先きに眞珠のやうにふくれたものが出來ます。ソレが貫膿、ソレからソレが大きくなるに從つて眞ン中が膨れて、丁度ビスケツトを横から見たやうになる、ソレから段々に青く赤くなります。九日も經つと青く固く赤みも強くなる、其時分になると子供が喧しくなつて、熱が出て夜分も能く眠らぬやうになります。併し是れとても普通に經過すれば、十一日目位には痂も取れてしまつて、跡に凹

んだ痕が出來ます。是れが先づ疱瘡の能く附いた有樣であります。

疱瘡を種えますのは、先づ小兒生後一年以内に一度は必ず種えなければならないが、凡そ生れてから七十日から六ケ月位迄に種えるが宜しい。歯の生へる頃に疱瘡を種えるは宜しくありません。且つ六七ケ月位の小兒であれば、格別喧ましきこともなく始末もよろしい、手などが自由に利いて來ると、搔きむしつたり、捻つたりして都合が悪う御座います。是れが第一番に種える時で、其の種えた時はドレ丈けの事を心得て居らなければならぬかと云ふに、其の心得は別に平生と變ッたことはありませぬが、小兒の疱瘡を種える時には、其前に湯に入れて能く洗ッて置きませぬと、八日も湯に入れる事は出來ない、襦袢も新らしき物に着換えるか、或は清潔に洗ッたものを用ゐなければならぬ。衣服は普通の形のものがよろしい、筒袖の着物は脱ぎましたり着せましたりするに不都合、且つ疱瘡の所を摩擦するの虞れがありますから、成るべく大きい袖が宜しい。食物は別に變ッたこともなく、又母親の食物も別に違ひませぬ。既に乳離をした者も別に毒斷にも及びませぬ

ソレから種えます時には温き室で肌をぬがせ、植えた後は少し乾くのを待ッて居らなければなりませぬ。其の植える數はドノ位かと云ふに、先づ大抵兩方の腕に、四ッ五ッ位合せて六ッから十か十二位ゐ種えるのが宜しい。一ッ位づゝ種えたのではドウも不充分であります。ソレから種えて仕舞ッてあとは此處に私の書きました種痘中の心得を持ッて參りましたから、一寸讀みませう。

○種痘中の心得

一入浴　種痘の後は、八日の間欠して湯に入るべからず、但し腰湯をなし、又は種痘の場所をよけて

湯、水等にて肢體をふくことは差支へなし

一衣服　衣服の中にも、襦袢は殊に清潔なるを用ゐるべし、糊強く、又は地合荒くして、痘粒を摩潰す虞あるものはよろしからず

一飲食　毒斷に及ばず、然れども消化やすき物をえらびて用ゐるべし、酒はのみすぐすべからず、

一痘胞　痘胞は大切にして、決して掻破り又は痂蓋を剥す可からず

一疾病　種痘後は、殊に風をひかぬ様にすべし、もし熱氣高くなりて降らず、又は異なる腫物など出來るか、他に病氣の氣味あらば、早速醫師の診察を受く可し

帝國痘苗院種痘所

此は帝國痘苗院に於きまして、種中痘の小兒に渡す心得書で御座います。若し小供衆の種痘をなさる時は、ソレだけの御注意をなされば宜しい。

ソレから種痘は一遍すればモウ宜しいかと云ふに、そうは往かない。種痘を一度すればドレだけ効能を有して居るかと云ふ事は、今日でも歐羅巴には議論はありますが、到底一度では往けないと云ふことは明かであります。是れに就ていろ〳〵の調べも御座いますが、或人(チトリッキー氏)の調に依りますると、種痘をした者は五年までは一人も天然痘に罹ッた者はない。又十五年までは縱令天然痘に罹ッても死んだ者は一人もない。又一度も種痘したことのない者は、始終種痘をして居る者よりも二十倍多くの天然痘患者が出來て、六十四倍多くの死亡者が出來たと云ふ事であります。又或人(チーウッツ氏)の説に依ると、二千九百人の小兒に就て再種を行ッた所が始めて種痘した時より十一年乃至十二年にして、百人に就て十七人は種痘を感じたと云ふことで御座います。ソレから又或人(ガイスレル氏)の調べに依

りまするど、七万六千六百七十一人の小學生徒の種痘をした中で、皆六歳以上十五歳までの者ですが、ソレが百人に付て九十七人九分は感じて居る。先づこれで見ると百人附いたと云ッて宜しい。又た或人(グロゴウスキー氏)の調べに依りまするど、種痘後何年の間其效が有るかと云うと、ドウしても六年經つと是非又種ゑなければならぬ。即ち六年經つと種痘の効能が無くなる。ソレで種痘後の天然痘患者を調べて見ると、八年半から十一年半迄の者であるから、種痘の有効年限は滿六ヶ年限りであると申して居る。ソレから私の經驗に依ると、極く數は少ないが一人は二年しか効能がない、二年前に人痘苗の種痘をして一ッ附き、今年又牛痘苗の種痘をしました所が、又一ッ附いた。モウ一人は甚だしい例で御座いますが、是れは九ヶ月目に効能が無くなりました。前の種痘の時に七ッ(一方に四ッ一方に三ッ)善感して、其後滿九ヶ月經ッてから私が種ゑて遣りました所が又善感しました。モウ其時に種痘をしなかつたならば、天然痘に罹ッたかも知れないです。

斯くの如く有効期限はいつであるか分らぬが、先づ或人の調に依ると六年限りと云ふが是は至極宜い說だらうと思ふ。ソコで私の考案で種痘をするに極く都合の宜いやうに、先づ生れてから六ヶ月目に種ゑる。昨年出ました伊太利の種痘規則に依ると矢張六ヶ月目に種痘ゑるとあります、其次には就學年齡(滿六年)に種ゑる。其次は小學校卒業の時(十四五年)其次には徵兵適齡の時(滿二十年)に種ゑる。さうして其年齡迄は政府でも干渉して種痘をさせなければならぬが、又父兄たる者も注意して種痘させなければならぬと云ふのですが、私は此方を以て現今の種痘規則を改正せられん事を望みます(其說明は畧す)

然らば種痘に就ての利益は分ッたが、何か害があるかと云ふに、蚤にも食はせぬ大切の子供に傷を附けるのでありますが、小供が可愛ければ可愛い程度々傷を附けなければなりませぬ。今その種痘に就て害のある事は、第一に痘苗の惡い事、例へば人痘苗とは如何なるものかと云ふに、小兒に種ゑた其痘苗を取るのであるから、若し其小兒に胎毒結核、皮膚病、癩病等の遺傳病が有ッたとすれば、其小兒から取ッた種を他の小兒に種ゑると、矢張り其の病氣をも傳染して來る、然らば是迄にもソンな例があつたかと云ふに有る。ドウして夫れが知れずに居るか、醫者が遣り損なつても之を匿して、ソレは外から出た病氣ですなど丶云ッて誤魔化して置く。さう云ふ例は決して少なくありませぬ。第二には牛痘種ですが、其犢牛が疾病があつたり健康でなくヒヨロ〳〵して居る牛から取ッた種は矢張り往けませぬ。故に此の痘苗は最も能く擇ばなければなりませぬ。私の考へには斯うなすつたら御便利であらうと思ひます。私共自分で痘苗を拵へて居るから、先づ私の處の痘苗が世界で一番良いとして、帝國痘苗院に往ッて痘苗を買求めて、ソレから御自分が御信用なさる醫師に賴んでうゑておもらいなさるが確かであらうと思ひます。誰れにでも種痘を致して貰ひさへすれば、ソレで完全のやうに思ッて居りますが、元來今日の種痘醫と云ふ者は如何なる者かと云ふに、種痘ばかりして居る者は多くは無學文盲の者ばかりであります。種痘は前にも申す如く色々な害もあり、決して忽せにしたり輕蔑したりすることの出來るものではありませぬ。然るに世間の父兄たる者は此の無學文盲の醫者小兒の健否をも識別る事の出來ぬ者に種痘のことを任せて滿足して居らるゝとは、甚た危險なことであります。種痘に就ての學問を十分に研究した者

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でなければ決して完全の種痘は出來ませぬ。眞に種痘に就て研究した醫師と云ふ者は、東京府下にも五本の指に數へる程しかない。その一事を以て今日種痘の行屆かないと云ふことが解かります。其次には種痘をする器械も大切なもので、若し其器械が不潔であるとか、他の物に觸れたまゝ消毒もせずに種痘をすると、時として病氣をからだに移した。からだ中に腫物がしたり、甚だしきは腕がはれ上ッて來たりする、是は多く不潔の器械等より生ずるのである。ソレ故若し醫者の方で種痘針を消毒せずに種ゑやうとした時には、「一寸先生針を消毒してから種ゑて下さい」と言ふ方がよろしい。ソレから種ゑる方も注意をしなければならぬと云ふは、醫師の着て居る衣服である、醫師はいろ／＼の病人の側に寄りますから、ドンナ毒物が附いて居らぬとも限られない。故に醫者の着物からして穿鑿するがよろしい。

次に手が汚なくては往けない、若しも汚ない手のまゝであつたなら「先生どうぞ御手を御清し下さい」と申すが宜しい、種ゑる方でも種ゑられる方でも、其位の事は必ず注意しなければならぬ。ソシで痘苗は精良のを用ゐなければならぬ。痘苗の良否は素人方には見分けることは出來ませぬから、種痘の學問をした人に就て見て貰ふがよろしい。此場合には價の高下を論ずる如きは必ず御無用で御座います。帝國痘苗院では一人分四錢でありますが、もつと安いのもあります、安い痘苗はドウしても惡い、僅かの違ひでありますから、良き痘苗を以て完全に種ゑますれば決して天然痘に罹る虞はありませぬ。即ち前に述へました諸害を除き得ますれば、彼の恐るへき厭ふへき天然痘も決して身体に襲ひ來ることはありませぬ。

然るに是れ程容易く取り除く法があるにも拘はら

ず、惡しき痘苗を以て種痘したり、其のために病氣を醸したり、或は生命にも拘はるやうに致します醫者は實に天下の大罪人と云はなければなりませぬ。且つ又此の譯の分らぬ醫者に甘んじて、小兒を托して居らるゝ父兄は實に無智の野蠻人と申さなければならぬ。而して種痘の目的は天然痘を豫防するのではない、撲滅するが目的で御座いますから、繰返し〳〵て申上るやうでありますが、年々一度位種痘を致しますのは極く容易いことで、時間を費すこともなく金も格別要しまするこどでもなく、然して年に一度種痘をなされば、天然痘の如き忌まはしき病氣は、決して日本のやうな立派な御國に跋扈する如き不都合は御座いませぬ。天然痘の如きは此の人間世界より入らしむべからさるものでありますから、天下の人一人も此病に罹る者の無きやうに、皆々撲滅と云ふことに御盡力なさるが必要で有と思ひます。

ソコで私の説を約言しますれば、人間の最大快樂は何であるか即ち身神の健康にして病氣に罹らぬことである縱令外の事は幾ら揃ッても身神が弱くては何にもならない、其の病氣の中でも最も忌むべき天然痘は、種痘さへ完全に致せば之に罹る虞れない。種痘は天然痘を人間界より外に追出すことの出來る一大能力者である、故に皆樣が眞正の種痘を怠らず爲さるやうに、又種痘をなさるに就ては、特に件々の御注意遊ばさるゝ樣に而人生の最大快樂の確乎たる一例ある種痘の爲に御盡力下されんことを、冀望致します。

（終）

寄書

●各國人に於ける授乳時の長短

京都　ドクトル　佐伯理一郎君

英米及獨佛等の文明國に於ける教育ある人民は母の其子に授くる乳を八ケ月乃至一年に止むるを多しとし田舎の愚民及都會の最貧者中の或る者を除くの外一年以上に及ぶ者少し但しこの乙者と雖ども二年以上に及ぶ者はあらじ」我日本の風俗は一般に授乳の時長きに過ぐることは皆人の知る所なりされど廣き世界の其中には我風に類似せるものあるのみならず我も中々三合を避くべき國々なしとせず左に獨逸人ドクトルプロッスが集めたる表を擧げん

一年乃至一年半	ダコタ、スー、ロンゴ黒人、パルサ、タネンパル、及チモオ島人
一年乃至二年	アルメニア、エリツンのタヽル人、エステ人、古羅馬人、中古獨逸人、カテガス人、ワスワヘル人
二年	ペルシャ、ナイエル人、チユド人、ルック島人エータス（フヒリピアン人）アストラヘンの魯西亞人、土耳古人、フエッ人、マロッコ人、埃士人、ニルレンド人、マチワガンダ、ワキンピー、ワニカンウエッ、古秘魯人、但しマホ、メット宗の經典「コーラン」及アラビヤの古き哲學者にして且つ醫師なりしアヴイセンナ（殆んど千年前の人）は授乳期を二ケ年と定めたり
二年乃至三年	オーストラリヤ、支那、日本、ロオス、シヤム、アルメニア、カルミニツケン、タタール、シリア、パレスチナ、アビシニア、カナリア島、カメルン、マンチゴ黒人古カルバル、バスト、マカラカ、トリンキト、アパヘン、アビキン、瑞典、諾威、スタイエル、メルクル、
三年	ルアング及セルマタ島及古猶太人
二年乃至四年	ペンシルバニアの印度人、ラプランド
三年乃至四年	グリーンランド、イロケス、ワラウ島人、カムチヤツカ、蒙古、マドラス、カビル、ネアペル

四年乃至五年｛カニカル、日本、フラジル印度人、オストエーク（シベリアの内）サモア、パレスチナ、オレゴン、カリフヲルニア、カナダ、スラビス、オーストラリア、新カレトニア布哇、カルミユツケン、ギニア、及セルベン等のインデアン人種

五年乃至六年｛サモア人

六年｛オーストラリア、ニユーゼーランド

六年乃至七年｛北米及カナダのインデアン、アルメニア及キユバ

七年｛エスキモー（スミスサウンド地方

十年｛支那、日本、カロリン島、

十二年｛北米インデアン人種

十四年乃至十五年｛エスキモー（キング ウイリアム、ランド地方）

右の内にて同國にてありながら著しく其年數に長短あるはブロッス氏が集めたる材料の報導者異なるに從つて異なれる報道を與へたると又他の理由は假令同國なりと雖ども其地方の異なるに從つて異なれる風俗あるに基因す。

此表に據る時は半開或は未開の國の多數人民は實に長き間授乳することを詳かにすべし然れ共之に反して同しく半開或は未開の國にてありながら授乳の時日驚くべく短かき者なきにあらず即ち南米ユクアトルのマイナス及トリンキトインヂアン等は半年間授乳しコロシヤ人は僅かに、十週間最も長くて三十週間又亞弗利加のホッテントット人及南洋のサモア人は四ヶ月間を以て授乳の期とすと云ふ然れ共世界の總てをは平均する時は一年乃至四年間を以て最も多しとせん（恐くは其中にて二年乃至三年間最も多數を占めん）何れの人種にをも通して奇なる風俗は餘り多くの子を生まんとを防がんために授乳の期を長めることありこれ乳を與ふる間には姙娠することと稀なりとの信仰世に普き證據なり蓋し此信仰は獨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

逸に於ても深く其根を固ふせり（殊に田舎に於て）又他の最も奇なる風俗は一時に長幼齢の異なる二人以上の小兒に授乳することなり即ちサモア嶋に於ては一人の母能く第一子より第三子に至る迄各々齢の異なれる小兒を同時に乳育するが如し

ベッセル氏がエスキモーのキング、ウイルアムス、ランドに於て目撃せる如き十四五歳の男兒が獵より家に歸るや否や先づ母の乳房を口にすと云ふが如き奇景は之を我國に見出すこと能はさる可しと雖も彼のオルガニスヤンツ氏の報告せるアルメニヤ人の中に於て學校に通よへる六七歳の兒童が尚ほ母乳を以て主なる食餌の一に置くが如き珍談は我邦にも亦其例飽充せり

右は唯だ人類學上の趣味より述たるなり而して我邦に於ける授乳の長短及び習慣等に就ての詳説は他日に讓る。

衛生叢談

浴場行日誌（前號の續）

醫學博士 佐々木政吉君

氣候、テプリッツは南北山を帶び氣候和平なり一年間の平均温は列氏七度半にして人の身体に適す

鑛泉、亞兒加里性の鹽泉に屬す温度は列氏廿九度半より三十九度に至る

此鑛泉は岩石の烈孔より迸出するものにして其源地深に在り故に毫も有機物を混すると無く純粹なる亞兒加里性鑛泉なり且炭酸を含むと多きか故に味ひ美にして又食卓上の飲料にも供すへし

其成分を揭けんに固形成分中最も多きものは炭酸曹達にして炭酸石灰之れに次ぐ又食鹽を含むと少からす其他硫酸、石灰、硅酸、硫酸加里、炭酸、次酸化鐵、等

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あり氣体にありては炭酸瓦斯其半は抱合し生は遊離す其他窒素、酸素等を含む

治效、テプリッツは浴治を主となし飲泉に非ず其効あるは慢性僂麻質斯、痛風、神經痛、脊髓病の初期、瘰癧、關節強直、及彎曲症、重傷後の遺後症等なり

浴場の重なるものを擧くれは帝浴、市浴、候浴等なり

「ソウヰエン」浴は猶太人に屬す

「テプリメッツ」浴は冬夏共に宜しと云ふ然れとも冬季は人の好まさる所なるべし

娛樂、「娛樂會合室」演劇、「奏樂所」讀書室等皆完備せり

藥舖は二所あり常に開業す

土地の住民外人を待つ懇切にして周旋最も務む北獨乙より南方に進めは南方融和の氣質自ら人の面に表はるゝが如し

テプリッツは紀元七百七十二年に濫觴し降りて千百五十六年ベーメン王の皇后コーヂス陛下此地に寺院を建て玉ひき恐くは此頃より始めて浴場を創建せしならん千四百六十八年女王ヨハンナは特別に浴場を設立せられたり千五百八十五年に至りては浴場の設け十四ヶ所に及へり爾來日を追ふて隆盛に赴き皇帝王族、政治家、學者、等頻々として來りて茲に浴治し今は歐洲有名の浴地となれり千八百六十二年八月廿九日より三日間千百年祭を擧行し紀念碑を建立せり

「クールタキセ」八日以上此浴場に滯留するものは「クールタキセ」を拂ふへし之を四級に分つ（墺國はクルデンを單位とし之れを百クロイツに分つ一クルデンは凡そ我六十錢内外に當る）

第一級は一名九「グルデン」二名は十五「グルデン」三名二十一「グルデン」四名は二十七「グルデン」なり

第二級一人六「グルデン」二人十「グルデン」三人十四「グルデン」四人十八「グルデン」なり

第三級にては一人四「グルデン」二人五「グルデン」半

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三人七「グルデン」四人八「グルデン」半なり
第四級にては一人二「グルデン」半二人三「グルデン」
三人四「グルデン」半四人六「グルデン」なり
貧にして拂ふと能はさる者は所轄官廳の證明に由りて「クールタキセ」を拂ふに及はす
夜十一時寢に就く　（以下次號）

◉府下十五區六郡の肺病患者

此程其筋に於て調べたる明治廿五年中の府下十五區六郡　肺病死亡者は左の如しといふ

區	男	女	合計
	千百十人	千百十人	千百十人
淺草	三九九	三六二	七六一
神田	二八四	二七〇	五五四
日本橋	二九六	二四五	五四一
本所	二七七	二五六	五三三
芝	二五七	二五九	五一六
京橋	二四七	二四九	四九六
下谷	二二一	二〇五	四二六
深川	一五五	一八六	三四一
本郷	一九〇	一三七	三一七
麴町	一二四	一一三	二三七
牛込	一二二	一一一	二三三
小石川	一二九	八九	二一八
麻布	一〇五	九六	二〇一
四谷	七八	五九	一三七
赤坂	七六	六五	一四一
合計	二九六〇	二七〇二	五六六二
六郡	五三〇	五四三	一〇六三
總計	三四九〇	三二四五	六七二五

之に據りて之を見れば肺病者の最も多きは淺草區にして最も少きは赤坂區とす蓋し家屋の疎密空氣の清濁等に關するものならん衛生に志しあるもの尤注

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意すべき事どもなり。

◉小兒の頭髪を剃るの弊

近刊の東京經濟雜誌を見るに左の如く記載せり

余輩小兒の頭髪を剃り坊主頭となすを見る每に常に悄然として懼れ淋然として悼む嗚呼是れ何等の陋習ぞや其れ小兒の頭骨は軟骨多し而して前頭骨の如きは未だ全く腦を蔽ふに足らずして俗に「ヒヨメキ」と稱する部分の如きは常に動搖を示せり夫れ此の如き軟弱の頭顱を蔽へる髪を剃り去り「ヒヨメキ」をして常にピクピクとして烈日白雪に觸れしむ何等の殘忍ぞや余輩地方を巡回し此の如き小兒に接すること多し而して東京府下また實に少からず余輩は第一に衛生家の注意を促し第二に府縣知事が說諭の勢を取り此陋習を改めしめん事を望まざるを得ず云々。

◉長崎の狂犬病

過日來長崎に於て狂犬病を發し每日犬に咬まるゝもの四五人づゝあるに付き同市にては目下專ら野犬の撲殺中なりとのことなるが元來同病は一種の恐るべき傳染性のものにして一犬若し此病に冒さるゝ時は延て他犬に及ぼし人も亦此犬に咬まるれば忽ち其毒に感染し負傷後十日或は一箇月にして狂病を發す其樣は殆んど犬の該病に冒さるゝものと均しく叫喚奔馳して暫くも靜止せず中には犬の如く四ツ這ひとなりて狂ふもあり斯くて精神鎭靜すれば忽ち平生に復するも大抵は鎭靜後五六日を經て仆るゝを例とす其傳染は總て咬み際に於いてするものにして一犬他犬を咬み他犬又他犬を咬む中に次第に蔓延するものゝ由なるが之が治療法は未だ漠として明かならず只狂犬に咬まれたる際直ちに患部を切斷するの外他に施すべき術なしとのことなるもその果して病毒を受けたるや否や分明ならざる中に斯る大手術を行ふは

忍び難きことあるを以て大抵は傳染の徵候明瞭なるに至り始めて驚き騷ぎを迎ふるを常とす去れど此時は早時後れて如何ともするに由なきなり一說に該病を豫防するには恰かも彼種痘の如く豫じめ此病毒を人體に植るを良とするやに聞けど我國にては未だ之を施したるの例を聞かず殊更目下狗族孳尾の時節とて別して其傳染も速かなるを以て同市にては嚴重に之が防禦に注意し若し已むを得ざる時は市內の犬に悉く口箝を施さしむる見込のよし此程までに該病に犯されし同市民は已に六十餘名に達したるが中には目を咬まれ又は肩を咬まれたるもあり過半は全治に至らざる摸樣なりと同地の新聞に見ゆ其後の報道によれば爾來其流行益々猖獗を極め到る處狂犬の出沒するに至りたるを以て同縣廳に於ても種々其豫防法を講究中なりしが頃日の通信によるに中濱博士は高嶺氏と共に去る廿二日長崎學校に於て狂犬を解剖し病理及其豫防法を研究したるよしなるが佛國の大醫パストー氏は多年の研究によるに狂犬病を豫防するには其病毒を兎又は猿等に試植し其感染の後種痘の如く人躰に接種するをよしとすと英米伊、露等は既に此法を採用し居れるが此際我國にても十分の實驗を試むる筈にて最早狂犬の腦漿を兎に試植したりといふ

元來狂犬病なるものは病犬に咬まれたるが爲に傳染するもの〻如く噂すれども往々咬まれざる飼犬にして此病にかゝる者あるを見れば或は他の傳染病の如く犬より犬に傳染するものあるや知るべからず實に危險なる事なれば同地方に於ては種々の方法を用ゐて野犬の繁殖を拒がんとすと最近報によれば同縣の狂犬病は昨今野犬撲殺の結果により少しく被害者を減じたる由なるが尙豫防の爲め市中の犬に口籠を嵌め害を防げば無病の犬迷惑し、モシ〱人間でも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無病の者は避病院へ送らないにワン〳〵〳〵。

◉コッポ氏の來朝

コッポ氏が肺結核治療法を發明してより之に對する毀譽褒貶は氏の一身に集りしも氏は屹然として動かず益〻其研究に怠なく氏の高足弟子たる北里博士の許へはコッポ先生よりも屢〻音信あり又北里氏よりも時々通信して其情交親密なるがコッポ氏は明年か明後年中には印度地方を漫遊の途次我日本國へも來朝する旨の私信ありしと

◉ラム子の取締方

ラム子及炭酸水等の如き沸騰する飲料は夏季に於ける一種爽快なる飲物なれども其販路の頻繁なるに乘じ遂に不良の品物を販賣するの恐ありて聞く處によれば兵庫縣の如きは去月五日を以て該取締規則を發布したりといふ當局者に於ても右製造取締を嚴重にすべき必要は已に〳〵認められつゝある由なるか未だ何等の沙汰なけれども氣節ものゝ事故一日も早く實行せざれば單に需用者のみならず製造人及販賣人等の都合上にも影響を及ぼすこと少からざるべし某化學家の府下に於けるラム子分析表を見るに二十七種の內全く鉛分を含まざるものは只一種のみにして他は鉛分を含まざるはなく就中五六種の如きは多量の鉛塊を含むものなりしと

抑も鉛塊の人身に害あるは普く世人の知る所なり縱令其分量僅少なるも常に飲用久しきに亘るか或は又之を多量に用ゐるときは遂には慢性中毒を惹き起し救ふべからざる不幸を見ることあるは衛生家の常に口にする所なり。

◎富豪の攝生法

大坂の富豪岡橋治助氏（七十）と云へる人は元大和の生れにて卅四の年二貫五百文を資本とし今日の富豪を得たりとのことなるが今は自家の商店を監督する上

一社長一頭取六監査役を勤め然かも古稀の齢を重ぬるも矍鑠として衰へず本年一月酒の過飲より痔を病し外、三十年來一度も病に罹りたることなしと云ふ今氏の攝生法を聞くに睡眠時間は普通の人に異らず飲酒用量定まらず相手に依ては七八合を傾け朝は牛乳一合に麪一片、晝は雞牛肉三十匁に野菜を加へ麥飯二椀、晩は牛乳一合に鳥獸魚肉二三十匁に麥飯二椀を喫し又朝褥を離るゝや寢卷一枚にて手足は云ふに及ばず身体殘る隈なく手にて強く摩でさすり後四斗樽の冷水を頭脳より浴びて丁寧に垢を洗ひ太陽に向ひ座して新鮮の空氣を呼吸し夜中吸込みたる悪空氣を吐出すを以て氏の嚴しき課業とし一日も怠ることなしと云ふ

◉虎列刺病の流行線及マラッカに於ける虎列刺發生詳報

マラッカ及シガポール地方流行の虎列刺病は一時は猖獗を極め日々二百余名の患者を生じ死亡者も夥しきよしなりしが今は大に減少せりといふ、從來我國に侵入して慘毒を各地に流したる其原因を搜れば何時も右マラッカ島にあるものゝ如し去る明治二十四年には五月中旬より同島に發生し夫れより支那に攻入り遂に我長崎港へ輸入せし爲め九州一圓に及ぼし強いて神戸大阪に進み病勢愈ゝ鋭く横濱港より直ちに府下を蹂躙し數万の生靈を地下の客たらしめたり虎列刺流行の原因右の如くなるを以つて其筋に於ても此際大に注意せられたるが今マラッカに於ける虎列刺發生原因の主なる點を擧ぐれば左の如しと

第一　マラッカ未だ水道の設なく一面支那人等の墳墓地なる山下の井水を飲用する事

第二　飲用牛乳中に土人は右の井水を混和して販賣すれども制止法未だ行屆かざる事即ちボービルの死去は此牛乳が一原因たりしと云ふ

第三 連日の不氣候と例年發生の時期到來せし事

◉火傷の妙藥

煮卵の內膜（蛋白と外殼との間にある白き色の膜）は頗る火傷の痛を和らぐるの効ありと今其用方を示さんに其內膜を濕して之を火傷の部分へ貼り付くるときは膿を去り能く、其痛みを和らぐるの効ありと頃日の家禽雜誌に見ゆ試むべきことならん。

◉僂麻窒斯患者癲狂に變ず

府下に於て或る處に僂麻窒斯專門醫院と稱し一貼金二圓次回より同金一圓宛の藥價を以て方劑を與ふる者あり此頃或る僂麻窒斯患者ありて同醫院に至り大枚金一圓を奮發して此方劑を購ひ之を服用せしに忽に氣分が變になり暫時睡眠せしが夫よりは丸で氣狂となり亂暴一方ならざれば止むことを得ず巣鴨なる癲狂病院に入院せしめたるが何分にも彼の僂痲窒斯藥の不審なるより早速近所の藥劑師小林某氏に語り其煎渣を示したるが煎渣のみにては定量試驗を爲し得られざるより更に一貼を購ひ之が定量驗查を爲せしに該方一貼は蔓陀羅華（葉及び實共）二、二九〇二より成れるものにして此中に含有する有効分（蔓陀羅華の）は〇、〇〇二八六二なり今之を日本藥局方に依て見るときは一回頓服すべき極量の殆ど三倍に當ると云ふ誠に恐るべき事ならずや其藥袋の体裁は左の如しと

> 僂麻窒斯專門醫院方劑　殿
>
> 淸き土瓶に淸水凡一合五夕を盛り此藥を袋に容れて煎出すること半時間以上凡半量に煮詰るを度とし袋を能く搾り去り其液を放冷し空腹の時一度に頓服し直に平臥すべし
>
> 但此方劑は殘渣の再用幷に他の患者に用ふるを禁ず

右は某新聞の記載する所にして說の信僞を不知れども注意を要すべきことあれば玆に揭載せり。

●火葬料改正の協議

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

府下各火葬場に於ける火葬料は從來下等一圓三十錢中等二圓五十錢、上等七圓の定めにて小兒大人等の區別無かりしが今度死體分娩兒は八十錢、六歳以下は一圓、十五歳以上は一圓二十錢と夫々區別を設け普通の男女は總て一圓五十錢と定め且つ從來六種傳染病の死體は其貧富に拘らず中等の火葬料を收めしが今度は必ずしも中等に限らざる事に改正せんとの協議中にて決定の上は近日其筋へ改正の認可を出願する筈なりといふ

◉摘草の注意

新潟縣中頸城郡箕冠村の農小林某長女さだ(十二)外二名の小供は偶々打ち連れ立ち摘草に行き芹（ミツバゼリ）と云ふ者あらん葉の裏に毛ありて通常の芹よりも大なるものを摘み來り之を煮て夕食に喰したるが夜中に至り俄に吐き下を初め全く中毒にて遂に三名の内兩名は死去せし旨其筋へ通知ありたりと昨今摘草の期節なれば注意すべき事どもなり

◉流行病一束

◎府下の流行感冒　昨今市内にインフルエンザの甚たしく流行するは重に淺草下谷の兩區内あるが中には腸窒扶斯、肺炎等に變症するものさへありて和泉町第二醫院の如きは外來患者非常に多く醫師も藥劑師も手廻り兼る程なりと他の流行病は右に引き換へ至て少く本所避病院の如き腸窒扶斯舊患者十七人新患者一人實扶的里亞一人天然痘六人なりといふ。

◉大坂府下の天然痘　同府下に於ける天痘然は今日に至るも更に消熄せず市内四區の新患者は一日平均十名内外あり郡部にては西成郡最も甚しく日々十二名以上の新患者發生し死亡者も尠からざる由去月十日より同十六日迄一週間の新患者三百四十五名にして内死亡百五十四名にして以後强制種痘を行ひし爲め少しく減少に至りしといふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎一家七人の腸窒扶斯　横濱の腸窒扶斯は昨今流行の兆候ありて既に去一日午後五時ごろ同市三吉町三丁目十九番地安宿營業渡邊さん方止宿人神尾助次郎外の七人は何れも同病に罹り直ちに避病院に送られ治療中にして尚其他に傳染の模樣ありといふ。

◎佛蘭西の虎列拉　去月二十二日以來佛國ロリアン（太西洋岸北部の港市）にて虎列拉病に罹り死する者五十一人に及べるよし去月五日倫敦發の電報に見ゆ。

◎コレラ流行　露西亞よりの來報に據れば同國に於ては露暦十二月二十六日より一月十六日に至る間コレラ大に流行し某縣の如きは其患者數五百八十六人の多きに達せりと。

◎釜山腸窒扶斯病の蔓延　同病は一旦消滅の有樣なりしが又々去三月十五六日頃より再發し昨今死亡するもの少からず殊に不便なるは醫師の不足にて我國より渡航しつゝある醫士の如き非常の多忙なりといふ。

◉大日本婦人衛生會の懇親會景況

去月廿二日芝離宮を拜借し會員の春期懇親會を催せり此日や宿雨既に霽れて滿天拭ふが如く春風温を送りて暖氣人に適せり今當日の景況を記さんに午前十時頃より會員續々參集するや各々思ひ〳〵に爰彼處と御園内を拜觀せしが夜來の雨に汀松翠色を累め池水波靜にして心氣爽然たりやがて正午に至れば豫て用意の折詰を分ち談笑餘然なく孰れも懇親を結びけり午後一時三十分頃に至りて總裁　小松若宮御息所殿下御臨場在らせられたるを以て役員一同御出迎をなし會員一同は立て敬禮し暫時御休憩御重の内下賜せられたり夫れより會場へ臨ませられ二時より餘興として鹿倉鋑子　幷　小女杉野ます子の富永流長刀木劍の仕合あり續いて右小女は師匠の詩吟に連

れ少しも臆する氣色なく數回の劒舞を爲したるが如何にも愛らしゝ會員の目を惹きたり次に師匠釘子の劒舞ありしが流石は老練にして詩吟と云ひ劒舞と云ひ沈着の態度を具へ懦夫もよく立つの思ひありたり暫時休憩茶菓の接待あり夫れより桃川如燕が滑稽交りの快辨を揮ひ大石良雄が愈々吉良家へ打ち入らんとする前淺野内匠頭の後室の許に至り其れとなく暇を告ぐの一齣をなが〳〵と演じ右終りて後五時過ぐる頃一同散會せしが當日招待せし人々は本會に關係ある諸大家諸氏及新聞記者等にして來會者總計凡二百五拾餘名昨年秋季の懇親會に劣らぬ盛會なりき。

同日久米ふみ子より左の一首を寄せられたり

いともかしこし總裁　小松若宮御息所殿下に

祝し奉る

生る身の衛りとたのむ姫小松
千世も八千代も常盤なるらん

久米ふみ子

◎役員改撰の結果概略前号に掲載せしが幹事評議員の内一二辭退の方あり愈々左の如く決せり

幹事	西さ代子
仝	村岡久野子
仝	加藤常子
仝	馬渡たま子
仝	中野ゑつ子
仝	北澤のぶ子
仝	濱田すて子
評議員	高木とみ子
仝	佐々木よし子
仝	大澤さく子
仝	山縣とも子
仝	加藤すゞ子
仝	西升子
仝	長與その子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

評議員　中濱よし子
仝　原田とき子
仝　宮本らく子
仝　荻原そう子
仝　河本かめ子
仝　榊　幸子
仝　岡田とく子
仝　中村はる子
仝　平田よし子
仝　南部　隈子
仝　岡田みす子
仝　緒方ゑつ子
仝　丹波さだ子

正誤

前号雜誌に掲載したる宮下俊吉君學位醫學博士は醫學士の誤りにして山谷德治郎君醫學士も衍なり右は編輯の際誤りたる者なれば茲に正誤す

廣告

◎去月廿二日春期懇親會への寄附左の如し　（イロハ順）

一金壹圓　濱尾さく子
一金壹圓　原田とき子
一金壹圓　羽田みき子
一金貳圓　西　ます子
一金壹圓　大澤さく子
一金壹圓　久米ふみ子
一金貳圓　阿部　優子
一金壹圓　佐々木よし子

◎去る四月より五月中の入退會轉居左の如し

入會者

◎會長土方龜子の紹介により
麴町元園町一丁目一番地　通常會員　手塚ふく子

神田南甲賀町五番地　通常會員　山崎すゞ子
芝三田四國町七番地　仝　三島わか子

◎幹事中野悦子の紹介により

麻布三河臺町十三番地通常會員　内田芳子
麻布霞町四番地　仝　武富すみ子
麹町八丁目十三番地　仝　瀧野さへ子
芝公園地九山下　特別會員　清岡かく子

◎高塚清子の紹介により

芝新門前町三番地　通常會員　高塚郷子

◎贊成員賀古鶴所君の紹介により

澁谷赤十字社病院　朝比山とら子
仝　所　高橋ため子
仝　所　千種八百子

◎會員細川郡子の紹介により

神奈川縣浦賀町七百十六番地
通常會員　嘉納千子

仝三浦郡西浦賀町川間七百三十九番地
通常會員　莊司操子
仝縣仝郡浦賀宮下四十二番地
仝　臼井せつ子
仝縣仝郡浦賀町紺屋廿四番地
仝　臼井民子

◎幹事加藤常子の紹介により

四谷本村町三十七番地通常會員　山上よし子

◎會員山田のぶ子の紹介により

麹町上二番町三十八番地
通常會員　山本た穂子

◎幹事北澤のぶ子の紹介により

牛込袋町二十五番地　通常會員　牧野しん子

◎地方會員近藤幸子の紹介により

群馬縣佐位郡嶋村字新地
通常會員　和田く仁子

◎地方會員椿たか子の紹介により

滋賀縣大津市　贊成員　平井政道君

◎贊成員平井政道君の紹介により

仝　通常會員　平井久萬子

滋賀縣大津病院長夫人　通常會員　野並み種子

◎幹事西き代子の紹介により

京橋築地三丁目四番地　終身會員　花房千鶴子

麴町裏霞ヶ關八番地　特別會員　林　操子

仝有樂町三丁目一番地九十六号　特別會員　岡師さよ子

大坂三軒屋町紡績會社前　通常會員　山邉さだ子

赤坂氷川町七番地　通常會員　八代操子

◎事務所へ申込により

長野縣下伊那郡飯田町　通常會員　小澤愼子

福岡縣福岡町衛生醫院内　通常會員　松尾しげ子

◎去る四月より五月に至る轉居者左の如し

下谷竹町十九番地へ　山川二葉子

麻布材木町卅四番地へ　福地しづ子

麻布霞町廿三番地へ　宮田みつ子

神奈川縣西鎌倉長谷百四番地へ　河津とし子

牛込區北町三番地へ　秀島千代子

神奈川縣西鎌倉長谷へ　中濱よし子

肥前佐世保村字矢岳八百七十二番戸へ　森　園子

越後國西蒲原郡鎧郷村大字押付へ　下村まき子

麴町有樂町三丁目一番地へ　石河里子

◎四月より五月に至る退會者左の如し

高塚清子　兵頭あさじ子　安藝つね子

杉本秀子

◎終身會員　是迄特別會員たりし鳩山春子には爾來終身會員となられたり

◎本會雜誌の表題其他少々變更の点有之候へども從前と其性質殊なると無之候間左樣御承知被下度候

大日本婦人衛生會

◉白粉定量分析成績表

左の分析表は水野虎吉氏の調査したるものありとて此頃得たれば玆に掲ぐ

名稱	水分%	鹽基性炭酸鉛%	澱粉及香料%
製造人 京橋區銀座二丁目 宇の丸甚五郎			
よわひの菊	三、一八八	三、五二五	六六、二八七
加茂川白粉	九、四七六	二四、九六〇	六四、五六四
花廻雪	三、三三二	三八、二三九	五八、四九九
金化粧	六、四八一	五三、一〇四	四〇、四一五
製造人 東京 盛田某			
雪すゞめ	九、六四七	三一、六三九	五八、七一四
製造人 日本橋區よし町 林啓熊			
きくさうれしろい	九、五三四	二三、七六四	六六、七〇二
製造人 本郷二丁目 かねやす			
薄化粧牡丹香	一〇、二二一	二四、七七一	六五、〇〇八
つや綿	四、九三八	六三、八〇八	三一、二五四
製造人 京橋區尾張町一丁目白牡丹本舗 松田幸次郎			
白牡丹	四、二八〇	五、〇七〇	九〇、六五〇
富士みがた	七、四二一	四三、三三〇	四九、二四九
金けしやう	六、六二八	四八、七九二	四四、五八〇
富香貴	一、九三七	七〇、五一一	二七、五五二
若まつかう	三、七九七	七一、八一一	二四、三九二
むつの花	〇、六二〇	八七、八四〇	一一、五四〇
パッチリ	〇、四七二	九五、一二〇	澱粉ナシ 四、四〇八
製造人 京橋區南傳馬町三丁目 坂本友七			
美艶仙女香	一、二九一	三二、四五九	六六、二五〇
製造人 仝常盤町 起久堂福島春伯			
顔のくすり菊堂散	一三、九四三	一、四二三	八四、六三四
製造人 東京日本橋區本両替町 京都四條柳馬場東入町 下村山城椽			
御匂入うすけしやう	七、六二八	二六、一五三	六六、二一九
丁子御白粉	四、五三二	五八、一〇八	三七、三六〇
匂入金けしやう 薄紅梅御白粉	三、八八〇	六九、一四四	二六、九七六
大清御上り 御丁子香白粉	三、九七五	六九、二七〇	二六、七五五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

雲の上	三、九九七	七五、七八〇	二〇、二二三
製造人　本郷　藤井　某			
ねりおしろい いせざくら	五、二四五	八〇、七四一	一一、八二九
外にグリスリン%		二、一八五	
製造人　神田南神保町四番地　翁屋政次郎			
百媚孃	二、一五九	八五、九三二	一一、九〇九
水分%	酸化亞鉛%	グリスリン%	
花の雪	八四、二七八	一三、六四八	二、〇八〇二
製造人　日本橋區小網町　伊勢屋吉三郎			
花にしき	三、一五五	一〇、四九〇	七七、三五五
雪月花	三、八五四	一三、八九九	八四、二四七
顔世香	三、五九八	一六、一三九	八〇、二七三
うすさくら 小町おしろい	一、一三九	一六、八五六	八二、〇〇五
ゆかり香	七、九二三	四〇、三〇九	五一、六六八
うす雪	一〇、五三五	四一、七六六	四七、六九九
都かさ香	七、七〇三	四四、一一四	四八、一八七
製造人　本所元町　岡崎屋市太郎			
金字きく堂	五、五一九	九、七五八	八四、七三一
うすげしやう白牡丹	一〇、五八五	一六、九五五	七二、四六〇
さく堂	三、九五七	一八、四〇四	六八、六三九
わけはの櫻	六、六四二	五三、一六八	四〇、一九〇
津々井筒	六、六三三	五六、三九六	三六、九八一
製造人　本所横網一　金袋堂伊勢屋吉次郎			
東香御白粉	三、九〇六	一五、六三六	八〇、四五八
御うす化粧	一四、八五二	一六、六八三	六八、四六五
すがた見	二、三八四	二、九九五	七四、六三二

（以下次號）

明治廿六年五月四日印刷
明治廿六年五月五日發行

東京下谷區練塀町四十三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京麴町區上二番町四十三番地
印刷者　八木吉六

明治二十六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行

（定價金拾錢）

神田區旅籠町廣業館印刷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN